



トピックス…②

平成30年度加工原料乳生産者補給金等の決定

平成29年12月15日、食料・農業・農村政策審議会畜産部会が開催され、30年度の補給金単価、集送乳調整金単価及び交付対象数量が決定された。新制度への移行により、その動向が注目されたが、補給金単価と集送乳調整金単価を合わせた額は前年度を0.10円上回る10.66円/kgとなった。

改正畜安法の下で初めての決定

改正畜安法の下で初となる加工原料乳の補給金単価は8.23円/kg、新設の集送乳調整金単価は2.43円/kgで合計10.66円/kg（前年比0.10円/kg増）、交付対象数量は340万トン（同10万トン減）に決定された。なお、交付対象には生クリーム等が追加された。

加工原料乳の生産者補給金・集送乳調整金等

		平成 29 年度	平成 30 年度	差異
バター・脱粉等向け生乳 チーズ向け生乳 生クリーム等向け生乳	補給金単価	10.56 円 /kg	8.23 円 /kg	▲ 2.33 円 /kg
	調整金単価	-	2.43 円 /kg	2.43 円 /kg
	合 計	10.56 円 /kg	10.66 円 /kg	0.10 円 /kg
	交付対象数量	350 万トン	340 万トン	▲ 10 万トン

加工原料乳生産者補給金単価の考え方

加工原料乳地域（生産される生乳の相当部分が加工原料乳であると認められる地域＝北海道）における生産費及び乳量の各々の変化率から求めた「生産コスト等変動率」を「前年度の補給金単価」に乗じて、「当該年度の補給金単価」を算定する。

この際、「前年度の補給金単価」は、平成29年度の補給金単価を「集送乳コスト」と「集送乳コスト以外」に切り出した上で、更に、「集送乳コスト」から「効率的に集送乳が行われる場合の経費（集送乳に最低限必要な経費）」を切り出した後、「集送乳コスト以外」と「効率的に集送乳が行われる場合の経費」を合計することで算出する。

[前年度の補給金単価の算出方法]

平成29年度補給金単価：10.56円/kg

うち、集送乳コスト：2.75円/kg

うち、効率的に集送乳が行われる場合の経費の額：0.75円/kg … A

（過去3年（平成25～27年度）の平均）

うち、集送乳コスト以外：7.81円/kg … B

前年度補給金単価（A + B）：8.56円/kg

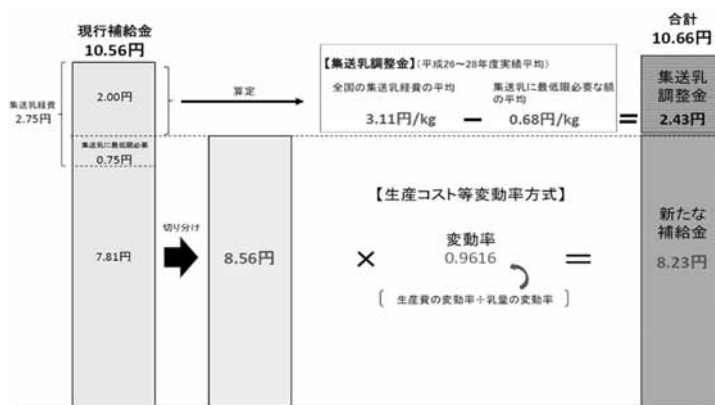
[平成30年度補給金単価の試算]

前年度補給金単価：8.56円/kg … C

生産コスト等変動率：0.9616 … D

平成30年度補給金単価（C × D）：8.23円/kg

平成30年度加工原料乳生産者補給金単価・集送乳調整金単価の試算



集送乳調整金単価の考え方

「集送乳に通常要する経費」から「効率的に集送乳が行われる場合の経費（集送乳に最低限必要な経費）」を控除することで、「当該年度の集送乳調整金単価」を算定する。なお、次年度以降の集送乳調整金単価は、前年度単価に、直近の物価で修正した生乳1kg当たりの集送乳経費（3年平均）の変動率を乗じて算定する。

[平成30年度集送乳調整金単価の試算]

集送乳に通常要する経費：3.11円/kg … E

効率的に集送乳が行われる場合の経費：0.68円/kg … F

平成30年度集送乳調整金単価（E - F）：2.43円/kg